

# Petrarca in Musica

ペトラルカ イン ムジカ



詩人

フランチェスコ ペトラルカ

に寄せて

2016年11月13日(日)

札幌時計台ホール  
18時半開場 19時開演

演奏 : Musica Ricercata  
ムジカリチェルカータ



後援 : 札幌市・札幌市教育委員会・イタリア音楽友好協会  
Lorenzo Villoresi Firenze

ベトラルカ イン ムジカ

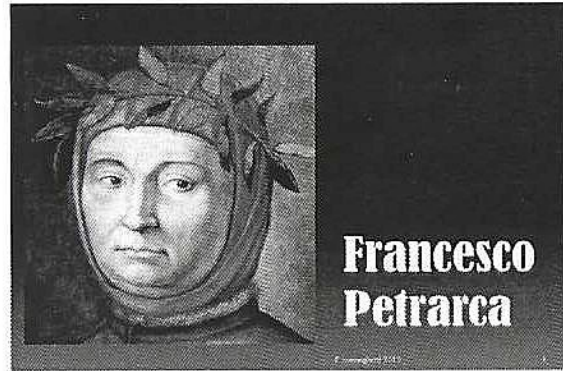
プログラム 第一部

作曲者不明	平和が見つからず	ソプラノ/ヴィエッラ/ピアノ
作曲者不明	トロット	ヴィエッラ独奏
ルドゥピクス・デ・アリミーノ (1430 - 1439 活動期間)	我が愛する祖国イタリアよ	ソプラノ/ヴィエッラ/ピアノ
ヤコボ・ダ・ボローニャ (1340 - 1360)	マドリガーレ: その人はディアーナに恋をした	ヴィエッラ/ソプラノ
フレデリック・ショパン (1810 - 1828)	プレリュード 11 番	ピアノ独奏
マリオ・カステルヌオーヴォ・テデスコ (1895 - 1968)	その人はディアーナに恋をした	ソプラノ/ピアノ
ドナート・ダ・フィレンツェ (1350 /70 -)	友好を持って	ヴィエッラ独奏
セラフィーノ・ラッツィ (1531 - 1613)	ラウダ: 美しい乙女よ	ソプラノ/ヴィエッラ
バルトロメオ・トロンボンチーノ (1470 - 1535)	フロットラ: 我が重い人生を支えるか細い糸よ	ソプラノ/ヴィエッラ
フランチェスコ・デ・ラヨッレ (1492 - 1540)	そのヴェールを取るならば	ソプラノ/ヴィエッラ/ピアノ
ジャック・アルカデルト (1504/05 - 1568)	おお、私の幸せな目よ	ソプラノ / ヴィエッラ / ピアノ
ディエゴ・オラティス (1510 - 1570)	レチエルカーダス	ヴィエッラ / ピアノ

チブリアーノ・デ・ローレ (1515 /16 - 1565)	美しい乙女よ	ソプラノ/ヴィエッラ/ピアノ
オラツィオ・パッサーニ (1550 - 1615)	美しい乙女よ デイミヌエーション	ヴィエッラ/ピアノ
シジスモンド・ディンディア (1582 - 1629)	我が嘆きを聞いておくれ	ソプラノ/ヴィエッラ/ピアノ

第二部

フランツ・シューベルト (1797 - 1828)	ソネット I: アポロンよ、まだ御身の愛の情熱が生きているのなら ソネット II: ただひとり思いにふけり	ソプラノ/ピアノ
フレデリック・ショパン	プレリュード 2 番	ピアノ独奏
マリオ・カステルヌオーヴォ・テデスコ	愛する人の顔に	ソプラノ/ピアノ
フレデリック・ショパン	プレリュード 10 番	ピアノ独奏
マリオ・カステルヌオーヴォ・テデスコ	新星の翼上の天使	ソプラノ/ピアノ
イルデブランド・ピッツェッティ (1880 - 1968)	ベトラルカの3つのソネットより 人生は逃げゆき、時は止まることなく	ソプラノ/ピアノ



## フランチェスコ・ペトラルカ (1304 アレッツォー 1374 バドヴァ)

フランチェスコ・ペトラルカは1304年イタリア中部トスカーナ州アレッツォーに生まれた。幼い頃、父に従って当時教皇が在籍していた南フランスのアヴィニョンに移り住み、後にフランスのモンペリエ大学とイタリアのボローニャ大学で法学を学んだが、法学よりも文学に心を惹かれた。

20代前半に父が死去すると、アヴィニョンに戻って聖職者の仕事についた。そしてかつてのローマの栄光を取り戻すためには教皇の帰還が必要だと盛んに詩に歌って訴えた。

一方で古代学問、文学や詩作の方に力を入れた。この頃、教会でラウラという女性に出会ったと言われている。彼は激しい思いを感じ、以後、彼女は彼にとって理想の女性となり、彼の創作に尽きないインスピレーションを与える特別な存在となった。しかしラウラが実際に存在したのか、誰であったのか知る人はいない。その後、彼はアヴィニョンの郊外で研究や創作に没頭し、また、しばしばヨーロッパの各地を旅して古典の収集などを行った。

ペトラルカは、古代ローマの時代の社会と文化を人間文明の模範として高く評価し、それに憧れた。彼は古いラテン語を完全に習得してローマ時代の古典の研究を行い、古代から学んでそれを人間や社会に活かすことを目指した。その一方で、彼はイタリア語による詩集、『抒情詩集』（『カンツォニエーレ』）を残した。これは、主として、上述の青年時代に出会った女性、ラウラへの思いをつづった詩366を集めた作品で、愛や苦悩の感情が洗練された表現によってうたわれている。

ペトラルカは、その優れた学識と文才によって、当代随一の文人として国際的な名声を得た。

彼は、古代のギリシアやローマで最高の詩人に与えられていた「桂冠詩人」の称号をローマ市から授与され、また各国の君主からさかんに宮廷に招かれて歓迎された。ペトラルカはこの称号（イタリア語でラウレア）を取得することを熱望していた、愛と名誉欲、ここから女性をラウラと名付けたという説もある。

彼は、ローマの古典の復興を行ったことで、古典を通じて人間性を追求する人文主義（ヒューマニズム）の先駆者となった。同時に、人間の自然な感情を優れた言葉によって表現することで、近代的な詩も切り拓いた。こうして、ペトラルカは、ルネサンス、そして近代文化の開花を準備する重要な役割を果たすことになった。

（人間の本質を知らず、何故にわれわれは生まれたのか、何処から来り、何処へゆくのであるかということに何の関心ももたずに追求されるような学問は無意味である）と主張した彼には、明確に人間尊重の姿勢が見てとれる。

抒情詩集のほか『凱旋』（1352年）『アフリカ』（1338年）といった壮大な叙事詩も書き残している。ペトラルカは、後半生を北イタリアを旅行しつつ、学者として過ごした。ボッカッチョと友人で遺産を彼に残したとも伝えられている。

## Musica Ricercata ムジカ・リチェルカータ

アンサンブル・ムジカ・リチェルカータは1987年にミヒャエル・シュトゥーヴェと他の音楽家によって創立され、フィレンツェを中心に活動している。1989年には文化協会として組織化され、1998年にONLUS（非営利協会）として認可される。当初の活動目的は、フィレンツェ楽派時代の偉大な作品レパートリーの復興であったが、その後グループの調査や研究は西洋音楽のヘレニズム時代から現代までのすべてを包括するものへと拡張した。これらの活動から生まれた演奏会のプログラムは、大変に興味深いもので滅多に演奏されない貴重な作品などが多く含まれている。

協会の会長及びアンサンブルの代表はミヒャエル・シュトゥーヴェ。彼の指導のもとでムジカ・リチェルカータはヨーロッパ各国やアジア諸国で演奏活動している。その中では国際フェスティバル（タランテゼ・パロック音楽祭1989年、ウンブリア教会音楽祭1995年、モンファルコーネ祭1996年、フィレンツェ5月音楽祭1996年、ポテンツァのアテネオ・ムジカ・バジリカータ1998年、ライブチヒ・バッハ祭2001年、チヴィダーレ・デル・フリウリ祭2001年、シェーンブルン・フェスティバル2002年、桐生市の室内音楽祭「室内楽の四季」2003年、モスクワのトスカーナ芸術週間2003年、京都・フィレンツェ姉妹都市40周年記念祝典2005年）での演奏活動も少なくない。

当協会は、国際シンポジウムや会議なども開催し、スクオーラ・ノルマーレ・スーペリオレ・ピザ大学（Scuola Normale Superiore Pisa）やルイジ・ケルビーニ・フィレンツェ音楽院、ウーロン音楽大学、モスクワ・グネッシン国立音楽アカデミー、大阪大学などの研究所と共同で学術活動も行っている。

出版物としては、代表的なものに、フィレンツェのLeo. S. Olshcki 出版社イタリア音楽学誌シリーズの「音楽と音響美学危機」（Musica e Crisi sonora）が挙げられる。ムジカ・リチェルカータは、ヨーロッパ及び国際共同事業をその活動目的ともしており、今までにEU委員会の様々な文化プログラム枠内での芸術プロジェクトを実現化している。

ギリシャ古代音楽とフィレンツェのオペラ誕生へ献呈されたプロジェクト

「ヘレニカ（ヘレニズムの事）- 古楽と現代音楽の会話」は、1996年と1997年に音楽文化プログラム「万華（Kaleidoskop）」に組み込まれた。「ソルトロード（La Via del Sale）」と題するムジカ・リチェルカータの演奏会は、毎年南トスカーナで行われたが、トスカーナ地方の文化プログラム「フランチェジエーナ街道（La Via Francigena）」枠内でトスカーナ地方より援助され、1998年と1999年にはEU委員会のリーダーII（L. E. A. D. E. R. II - Liaison Entre Actions de Développement de l'Économie Rurale ヨーロッパ地方活性化文化事業企画）プログラム内で助成もされた。「ミューズ・博物館・音楽（MUSA MUSEO MUSICA）- オルガニケ・ヴォーチェス（オルガニックであり、オルガナムであることに結びつく声や声部のこと）Organicae voces. 17、18及び19世紀の音響の世界」は、楽器音楽史と歴史的音響型の発展に関する3年間に及ぶプロジェクトで、1999年から2002年までEU委員会の文化遺産保護プログラム「ラファエル（Raphael）」の枠内で助成された。

[www.musicaricercata.eu](http://www.musicaricercata.eu)  
[www.musikmuseum.eu](http://www.musikmuseum.eu)



## Michael Stüve

ミハエル・シュトゥーヴェ ヴァイオリン、ヴィエッラ奏者

ドイツで育ち、音楽と社会学をイギリス、オーストリアとアメリカで学ぶ。ウィーン・フォルクス歌劇場、ウィーン国立歌劇場とフィレンツェ五月音楽祭でバイオリニストとして活躍。ウィーンのラクセンブルグにある国際分析研究所グループの一員で、経済社会問題国際会議において研究発表をした。



1987年よりフィレンツェに在住。ここでムジカ・リチェルカータ及び同名の協会を文化芸術促進目的として創立。アンサンブルの芸術監督であり、すべての音楽様式時代を把握するプログラムをプロデュースし、ドイツ、フランス、ギリシャ、イタリア、日本、オーストリア、ロシアやスペインなどで演奏活動をした。演奏活動の他に音楽学や音楽社会学をテーマとする会議の組織なども行う。ウィーン音楽大学、大阪大学、モスクワ・グネッシン国立アカデミー、スクオーラ・ノルマーレ・スーペリオーレ・ピザ大学、フィレンツェのルイジ・ケルビーニ音楽院などで音楽史の講演、イタリアやオーストリアでシンポジウムにも参加。2004年にLeo. S. Olschki 出版社からイタリア音楽学誌シリーズの一貫として「音楽と音響美学危機」を出版。1996年以来EU委員会促進の多種多様なEUプログラム枠域内でEUプロジェクトを手掛けている。

ウィーン室内弦楽団の一員として1979年に日本ツアーで来日。その際旧札幌市民会館、旭川市民会館で演奏している。2003年にはムジカリチェルカータで京都にてレクチャーコンサートを開催。最近ではムジカリチェルカータ弦楽四重奏で第2ヴァイオリン担当しフィレンツェを拠点に数多くのコンサートに出演。

## 内村 亜彩子 ソプラノ

北海道教育大学札幌分校芸術文化課程音楽科  
声楽専攻科卒業。札幌在住時、相川智子、野田廣志の  
各氏に師事。

2000年からイタリアフィレンツェに移住。  
アカデミアムジカレフィレンツェ声楽科修了後、  
フィレンツェ国立音楽院ルイーゲルビーニにて  
声楽科学士取得のちローマサンタチエチーリア  
国立音楽院修士課程を経てヴェローナアカデミアアイマーロにて学ぶ。  
その間多数のマスタークラスに参加。フィレンツェ市立劇場  
主催でグレゴリオ聖歌研究生として学びイタリア国内、  
チェコスロヴァキアのグレゴリオ聖歌フェスティバルでソロ演奏をし国営ラジオで放送される。



これまでに大学オペラでヘンゼルとグレーテル、売られた花嫁に出演。  
イタリアでは「フィガロの結婚」のスザンナ、ケルビーノ、「コシファントゥッテ  
」フィオルデイリージ、「ドンジョヴァンニ」ドンナエルヴィラ、「椿姫」でアンニーナ、  
ヴィオレッタ、「ボエーム」ムゼッタ役にて数多くのオペラフェスティバルで出演。最近では  
バロック音楽の演奏活動も本格的に行い、ライオンズクラブ主催合唱フェスティバル（カンピビ  
ゼンツィオ）でヴィヴァルディ合唱組曲マニフィカートでソロを務める。（共演アンサンブルGAM）  
サンフィレンツェ教会聖歌隊のアシスタントを務める傍ら、2014年聖人サンフィリッポネーリ  
生誕500周年記念開幕式でヴィヴァルディ合唱組曲 ベアートゥスヴィルで、2015年閉幕式で  
ヴィヴァルディ合唱組曲デイクシットでソリストを務める。2016年オーストリアインスブルック  
古楽音楽祭に合唱団員として参加。モーツァルトウムにてバロック声楽を学び、修了コンサートに出演。  
2014年よりムジカリチェルカータ所属。ペトラルカインムジカ、レクチャーコンサート  
（フィレンツェ）に出演し好評を得る。コンチェルトクラッシコ、ノーテアルモニケ協会に所属と  
同時に、フィレンツェ国立音楽院で伴奏助手、私立フィエーゾレ音楽院声楽科助手、  
フィレンツェフランス人学校声楽講師を務める。

## 横山 緑 Ryoku Yokoyama

ピアニスト・フォルテピアニスト・チェンバリスト



東京都出身。都立芸術高等学校、武蔵野音楽大学を卒業。  
2003年にはケルン音楽大学教授陣による  
Matteheiner Sommer Akademieより全額免除奨学生に選抜され、  
ソロと室内楽コンサートに出演しディプロマを取得する。  
2008年にイモラ国際ピアノアカデミーの  
"Fortepiano e Pianoforte Romantico" コースをディプロマし、  
併せて最優秀生が受賞する"Diploma di Master"も取得する。  
2008年よりイタリア政府国費留学生として  
フィレンツェ・L. ケルビーニ国立音楽院 (Biennio) に満点で首席入学し、  
ピアノとフォルテピアノをS. フィウツツィ、室内楽をT. メアッリ、伴奏法をL. デ・リージの各氏に師事  
し研鑽を積み、2013年2月に最高得点を得て首席で卒業。またこれまでの全科目の成績が満点以上、卒業  
試験の演奏、校外での積極的な演奏活動が高く評価され、満場一致で"名誉称号"を取得する。現在、  
同音楽院にてチェンバロをアルフォンソ・フェーディ氏に師事し、研鑽を続けている。

これまで数多くの国内・国際コンクールで受賞を果たす。万里の長城杯国際音楽コンクール第1位の  
他、2006年、Riviera Versilla コンクール（イタリア）にて満場一致1位、「Lorenzo Perosi」  
国際音楽コンクール3位、バドヴァ国際コンクールのピアノ部門1位、全楽器総合部門満場一致で1位を  
受賞し、併せて「バドヴァ賞」も受賞。2007年、スキーオ国際音楽コンクール1位、ペーサロ国際音楽  
コンクール1位、「Harmoniae」国際ピアノコンクール3位を受賞、シェーベルト国際音楽コンクール  
（イタリア）にて全楽器総合部門3位を受賞する。2009年、バルドリーノJan Langosz 音楽コンクールに  
て満場一致で1位を受賞し、併せてL. Spezzafari 賞（現代音楽賞）を受賞。2012年、Vittorio  
Chiarappa 財団より室内楽の奨学金を授与。2013年「Arte Musicale e Talento」国際音楽コンクール2  
位を受賞。

現在イタリアを拠点とし、日本、イタリア、ドイツ、ベルギー、オーストリア、カナダにてソリストとし  
てオーケストラ共演、室内楽、歌曲伴奏等、数多くのリサイタル、国際音楽祭に出演し、テレビやラジオ  
等で紹介される。また古楽器演奏家としても活躍しており、フォルテピアノをはじめ、クラヴィコー  
ド、チェンバロを使用したコンサートも積極的に取り組み、数々のコンサートに招待され高く評価されて  
いる。ミラノ、ウーディネでのディーノ・チャーニ国際音楽祭に出演の他、2012年にはゾーピン・メータ  
ーが名誉理事長を務めるペンテコステ国際音楽祭にてリサイタル出演し大絶賛される。アカデミア・バル  
トロメオ・クリストーフォリ、Auditorium al Duomo Firenze, ベッキオ宮殿500人の間、Villa  
Favard、バルジェッロ美術館、シノーポリ・ホール、ローマ国立楽器博物館、Fava 宮殿、Zacco-Armeni  
宮殿、ウィーン・ホール（ザルツブルク）、ストロツツィ宮殿、その他多くの主要な演奏会に出演。

これまで奥村真理子、荒川留美、白崎彩子、砂原悟、植田克己、三浦さえ子、C. ジュディチ、  
H. ブラウス、S. エーデルマン、S. フィウツツィの各氏に師事。またマスタークラスにてV. マルグリ  
ス、F. スカラ、B. カニーノ、R. レヴィン、A. ロンクイッヒ、A. ヴァルドマ、J. アチュカロの各氏に師事。  
演奏活動、また国際・国内コンクールの審査員も務める他、後進の育成にも力を注いでいる。また2013年  
11月からフィレンツェ・L. ケルビーニ国立音楽院の古楽器科の伴奏助手を務める傍ら、イモラ国際ピアノ  
アカデミープロジェクトジャパンの代表・音楽監督を務める。